

# 開成校新聞

発行 開成中等新聞局  
発行責任者 宮崎 \* \* \*  
制作者 若井

1/365コマ  
最近新聞局の局室が徐々に華やかになってきて、毎日のパーティ気分が楽しいなあ。

## 「中期演劇部」校内公演

### 未来の演劇部を担う13人

10月29、30日の放課後に、中期演劇部による校内公演が行われた。29日には、脚本家である柴幸男の『あゆみ』を、30日には、コントユニットであるラーメンズの『QA』を上演した。本記事では、29日の公演に出演した3年の加藤万菜さんと本家未来さんへの取材をもとに、中期演劇部の活動内容や魅力をお届けする。



▲インタビューに答える本家さん(左)、加藤さん(右)

#### 熱気あふれる公演

10月末に行われた校内公演は、カフェラウンジ全体が多くの人で埋まり、客席が足りずに立ったまま鑑賞している人もいた。この様子から、多くの人がこの公演を楽しみにしていたことが伝わる。実際に『あゆみ』を鑑賞した人は「場面切り替えが激しく内容も難しかった。公演後も考えさせられる作品だった」と話し、『あゆみ』という作品が深いものである

この公演をもって中期演劇部の活動は終了しており、3年生は11月から後期演劇部と一緒に活動している。中期演劇部とは、3年生のみが所属する演劇部内の活動である。設立の理由は、演劇部全体の知名度が上がり、部員が増える中で、前期演劇部を引退した3年生が活動する機会を作るためだそうだ。今年から新型コロナウイルスの規制が緩和されたことをきっかけに、

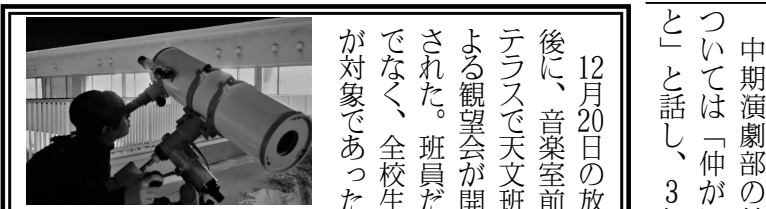
#### 中期演劇部とは

7月24日に行われた前期演劇部による大型校内公演「わが星」は、多くの観客を集めて大成功に終わった。手応えを感じたため、これをきっかけに、3年生のみで公演を行う「中期演劇部」という活動形態を作り、今回の上演に至った。前期演劇部や後期演劇部との違いについて加藤さんは「大きな違いは活動内容にありまして」と語った。前後期演劇部では、公演に向けた全体練習だけではなく、体力作りや発声練習などの技術面の強化も行っている。一方で、中期演劇部は校内公演を行うための練習のみを行っており、台本の読み合わせやリハーサルなどを徹底的に行うことで劇の完成度を高めているという。

中期演劇部の活動の難しさについては「人数が少ないことで様々な問題が起ったこと」と話した。中期演劇部はメンバーが13人であり、前期演劇部で活動を行っていた時に比べて、人数が少ない分、音響や照明などの裏方を一人で担当するなど、部員一人一人の負担が大きいことが大変だったという。また、メンバー全員が劇に携わっていることで、劇に対する客観的な意見を取り入れることができないことにも苦労を感じたそうだ。

今後の活動について4月には、3年生を含めた後期演劇部による新歓公演が予定されているため「ぜひ来てほしいです」と加藤さんは話した。後期演劇部が校内公演を行うのは、10ヶ月ぶりである。また、今後の後期演劇部の活動目標については「演劇部の知名度をもっと上げることで」と笑顔で語っており、活動に注目が集まる。

#### 12月20日の放課後



▲観望会の様子

## クリスマス観望会開催

12月20日の放課後に、音楽室前のテラスで天文班による観望会が開催された。班員だけでなく、全校生徒が対象であった今回の観望会は、空にあら様々な星を観察できた。天文班は定期的に観望会を開催しており、10月11日に行われた観望会では、アンドロメダ銀河を観測できたそうだ。今後、様々な天体の観測が期待されている。